

日本人の死因5位、高齢者の割合多く

重症化しやすい肺炎球菌

九州大病院別府病院の治療・研究

からだを
読み解く

▶ 12 ◀



内科医員
団塚裕子

感染症は細菌、ウイルスなど病原微生物が体内に入ってから引き起こす疾患です。その中でも気道や肺に感染が起こる肺炎は日本人の死因5位であり、特に高齢者が死亡する割合が高いです。

肺炎の原因になる病原微生物として多いのは肺炎球菌という細菌です。肺炎球菌は重症化しやすい特徴があり、日本の死亡率は5%前後というデータもあります。新型コロナウイルス感染症と同様に会話、せき、くしゃみなどを通じて感染します。その後は症状がな

いまま鼻の奥にある鼻咽頭にすみ着きます。乳幼児の約半数、成人の約10%の鼻咽頭から肺炎球菌が見つかったという報告もあります。肺炎球菌は鼻咽頭から肺に侵入して肺炎を発症します。特に高齢者は唾液の誤嚥などで肺へ流れ込みやすく、肺のバリア機能が弱いこともあり、肺炎を起こしやすいです。高齢者は発熱、せきなどの典型的な肺炎症状だけではない場合もあります。例えば、食事が減った、会話量が減った、頻回に転倒するなどの症状が出ることもあります。発見が遅れることも重症化しやすい要因です。肺炎球菌の検査は痰から菌自体を見つける顕微鏡検査や培養検査と、尿による迅速検査があります。重症化を

新型コロナウイルス感染症流行前後の死亡率の経時的变化(10万人当たり)

	2018年	19年	20年	21年
肺炎	76.2	77.2	63.6	59.6
インフルエンザ	2.7	2.9	0.8	0.0
誤嚥性肺炎	31.0	32.6	34.6	40.3
老衰	88.2	98.5	107.3	123.8
脳血管疾患	87.1	86.1	83.5	85.2
心疾患	167.6	167.9	166.6	174.9
悪性新生物	300.7	304.2	306.6	310.7

※厚生労働省の人口動態統計の概況より作成

防ぐためには早期診断と早期治療が大切で、何か体調がおかしいと感じたら早めに医療機関を受診しましょう。

予防も大切です。肺炎球菌はワクチン接種による予防が有効です。肺炎球菌は90種類以上の血清型がありますが、そのうち23種類の血清型の予防が可能な「23価肺炎球菌ワクチン」があります。このワクチンは65

歳以上の高齢者は定期接種対象者となっていますが、接種率は約3割と低い数値で推移しています。

また、インフルエンザは細菌による肺炎を合併しやすいと言われています。インフルエンザの重症化を防ぐインフルエンザワクチン接種も肺炎の予防に効果があるとされています。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2020年は肺炎死亡が減少しています(表)。ワクチン接種だけでなく、マスク着用、換気促進、密を避けるなど新型コロナウイルス感染症の対策が肺炎にも有用と考えられています。

現在、新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、感染症対策は緩和されていますが、新型コロナウイルス感染症以外にも注意すべき感染症はたくさんあります。ワクチン接種や体調が悪い時のマスク着用など、自分自身や周囲の人を守るためにも感染症対策は重要であることを忘れないようにしましょう。

ワクチン接種などで予防

＝終わり＝